



①およそ 13,000 人がフルマラソンの部に出場しました。②仮装で大会を盛り上げるランナー。③私設エイドでランナーを「お・も・て・な・し」。④霞ヶ浦中学校吹奏楽部による沿道での演奏。⑤郷土資料館前。⑥目の前を通過するランナーを応援する子どもたち。⑦応援川柳を持ちランナーに声援を送ります。⑧たくさんの方の応援を受けランナーにも笑顔が浮かびます。

Camera Report

第 26 回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン

笑顔で「お・も・て・な・し」

4月17日、第26回かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンが行われ、1万8500人が出場しました。途中から冷たい雨が降り出しましたが、ユーモアあふれる応援川柳やかすみがうら市名物の私設エイドなどさまざまな「お・も・て・な・し」でランナーに温かい声援を送りました。走る人も、応援する人も、支える人も、ひとりひとりが大会のヒーローとなり、たくさんの方の笑顔があふれた今大会。来年の大会で、また皆さんのすてきな笑顔をお待ちしております。



フォトアルバム

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

木漏れ日を踏み新緑の風の中
D引のんと据えられ若葉萌ゆ
つじ咲き色とりどりに明るかり
新樹光煉瓦造りを引き立たす
雲間より日射しのぬくき湖畔かな

大塚 隼人
大西 周
加藤 貞江
北野 良雄
熊沢 鉄雄

紫陽花俳句会

初午や狐面おでこに母のあと
リヤカーに園児のせおり花吹雪
風強く供花短かめとす彼岸
光りつ花びら浮へにはたつみ
猫柳銀の衣に朝日射す

飯田 功
久保 慶悦子
車田 きみ
萩原 とし子
福田 宏通

出島短歌会

草の中ながれる川をゆつくりとつみいることはやき夕暮れ
願いこ枕の中に仕舞いこみつかかないしその朝を待つ
花咲けば思い出のあり上野も姉の今年の春をうかひつ
わきまえて年想恋に生きてるつもり會孫相手に今日も終りぬ

岡田 恭子
名倉 親子
浜田 留子
飯島 ヒロエ

投稿作品

雪入の山を彩る櫻花朝日を受けて美しき里
桜愛で移ろう春を惜しみつ此の一瞬の切なさを知る
猫柳枝のあひだにダイヤ富士
幼児への虐待の報の多かりしかわい盛りの断たれし念い
大騒ぎされた桜も散り果てて季節違わず石楠花咲き初む
童うた通いなれたる学舎の光々として影の掬けき

石塚 清
沼野 はつ子
扶美 世
中島 良平
菅谷 味子
吉田 正道

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。6月2日(日)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。なお、応募多数な場合には掲載されない場合がありますのでご了承ください。

わがふるさと 史宝をたずねて

市民学芸員が行く シリーズ②

木村家住宅「旅籠皆川屋」

かすみがうら市内の水戸街道は、上稲吉村清水(現在の上稲吉清水地区)から市川村(現在の市川地区)の約2里約8kmの道程です。この道程に、千住宿(東京都足立区千住)から数えて14番目の宿場の稲吉宿があります。

稲吉宿では、17軒もの旅籠が軒を連ねて大名一行をはじめ旅人・遊客で賑わいを呈していました。現在では、唯一の江戸時代旅籠の建物として、県指定文化財の木村家住宅(旅籠皆川屋)が残っています。中に入ると、まず太い黒柱(樺材)と看板が目につきます。看板には皆川屋の名前と「しがらき御茶漬」「御宿泊所」などの文字が彫ってあります。

一階の平面は土間によつて右側の部屋と左手の客向きの部屋に分かれています。勝手場に接する8畳間には、囲炉裏があり、この押し入れのひつつには鍵がかかるようになっていたり、奥座敷には、床の間が設けられていたり、上客はここに通されたのでしょうか。二階に行ってみましょう。まず広い廊下とそれを囲む障子の白さが眼に入り印象的です。一瞬タイムスリップした感



↑県指定文化財の木村家住宅「旅籠皆川屋」(下稲吉 1393)

じになります。廊下に沿って部屋を一系列に配置しており旅籠らしい特色でしょう。二階も一階と同様に間仕切り壁はなく、部屋境は建具がはいつています。隣室の物音が耳ざわりなので部屋境は、大きな板戸を用いています。板戸の両面には、三保の松原・天女・富士山・牡丹・白鷺・荒海と千鳥などの絵が描かれています。また、部屋の壁には旅人が残した落書きなどが見られます。遠くは江戸、近くは土浦・府中の地名、あるいは、女性の名もみられ、当時の庶民の生活の一端が見られ面白いです。ぜひ一度歩きませんか、水戸街道稲吉宿を！
 次回は稲吉宿のもう一つの建物、坂本家住宅(稲吉宿本陣)を紹介します。
 (深井 征二郎)
 郷土資料館
 ☎029(896)0017